堺探検クラブ

幻の「天下一壷塩師 伊織」のふるさと・湊めぐり

～鯨祭りから紀州街道、瘡神さん、堺の風車まで～

① 南海本線「湊駅」

明治30年（1897）設置。戦前は海水浴や大浜水上飛行場で賑わいました。湊・出島浜の歴史は古く、鎌倉期に鯨捕獲に失敗して漁民が慰め合ったことがきっかけの「鯨まつり」が伝えられています。「くじらとろとて網まですいて くじら熊野へみなかえる 沖に見えるはくじらの山か おかへのぼせば黄金山」と鯨音頭とともに竹組みの鯨模型を担いで住吉大社まで練り歩くもので、昭和29年（1954）の祭礼時は約27メートルの巨大鯨が奉納されました。

② 与謝野晶子歌碑（湊駅前公園内）

湊駅前東通商店会主体で建立。「ちぬの海 いさな寄るなる をちかたは ひねもす霞む 海恋しけれ」「夕されば 浜の出島の うたひめの 島田にまじり かはほりぞ飛ぶ」と湊、出島ゆかりの与謝野晶子の歌2首が刻まれています。

③ 旧堺紡績会社 変電所

明治29年（1896）操業。後に阿波紡績、福島紡績と合併しましたが業界の斜陽化で昭和38年（1963）に木工工場に。昭和51年（1976）にそれも移転しました。鋸屋根の煉瓦造りの美しい工場群でしたが取り壊され、変電所の窓と外壁一部のモニュメントが保存されています。

④ 堺の穴子

かつて堺は穴子屋筋という通りがあったほど穴子漁が盛んで「下関のふぐ 堺の穴子」と称される名産地でした。昭和3年（1928）発行「堺市案内記」にも堺の名産として芥子餅、くるみ餅などと並んで穴子料理が記載されています。深清鮓さんはその伝統をいまに伝える老舗の穴子寿司専門店です。

⑤ 土居川

中世・堺は日本一の国際貿易港として繁栄し、堺商人たちは環濠を作って自治都市を築きました。一時期、秀吉によって環濠は埋め立てられますが江戸時代に復活。その後身が土居川で土堤防（土居、土塁）が名の由来といわれています。マボラ、セスジボラ、メナダといった魚や、コサギ、ゴイサギ、カワウ、ユリカモメ、アオサギといった鳥の飛来が確認されています

⑥ 紀州街道

大坂から住吉、堺を経て紀州を結びます。古代は白砂青松の美しい海岸沿いで「岸の辺の道」と呼ばれました。昭和48年（1973）に司馬遼太郎が「街道をゆく」取材で訪れ、山崎理髪店（現・山崎たばこ店）店主に船待神社を案内されています。遼太郎は「中世末期に自由都市として栄えた堺というのは、日本史における宝石のような、あるいは当時世界史の規模からみて大航海時代の潮流を独り浴びつづけたという意味において異様としかいいようのない光彩を放っている」と堺を評しています。

⑦ 船待神社

古代は河内国大鳥郡塩穴郷にあって天穂日命（土師氏・菅原氏の祖神）を祀る塩穴天神社と呼ばれ、延喜元年（901）に菅原道真が太宰府への船を待つ途中に参拝したといいます。長保3年（1001）に菅公の子孫・菅原朝臣為紀が菅公を祀って船待天神社と改め、寛治頃（1087～1093）に当地に遷りました。菅公お手植えの古松がありましたが昭和40年頃に枯死。古松下から発見されたのが腰掛石です。明治40年（1907）に湊村字中筋鎮座の村社・瘡神社が合祀されました。

⑧ 湊焼

行基が熊取東部の丘陵地の白土を運び、湊の人に焼きものを教えたのが起源で、天正頃（1573～1593）に千利休の注文で点茶用砂鍋を造り、賞賛を受けたと伝わります。また「本朝陶器攷證」によれば慶安頃（1648～1652）に、楽焼の樂吉左衛門の弟・吉兵衛が、一子相伝の秘法を盗んだので京を勘当されて来堺し、瀬戸物商の山本吉右衛門がパトロンとなって焼きものを始めたのが創始といいます。その後、吉兵衛は帰京して吉右衛門が焼きものを始め、18世紀末には交趾（ベトナム）風釉薬が伝来。5代吉右衛門が湊焼と名付け、15代火鉢屋吉右衛門は堺一の名陶工と伝わります。明治期に山本家の職人頭が津塩吉右衛門と名乗って紀州街道筋に分家、津塩家の住吉人形や南蛮人形、喜々猿（昭和55年・申年の年賀切手の図案に採用）も高く評価されています。大鳥大社に明治13年（1880）奉納「湊陶工吉右衛門」銘の陶額、瘡神社に明治16年（1883）奉納の「能良遺法土師湊狂良」銘の陶額が現存しています

⑨ 大内義弘供養塔（本行寺内）

大内義弘（1356～1400）は周防の守護大名でしたが、九州探題・今川貞世とともに九州南朝勢を討伐。山名氏が足利義満に叛乱した明徳の乱鎮圧や南北朝合一にも尽力して和泉・紀伊・周防・長門・石見・豊前の6カ国を領し、李氏朝鮮、明貿易でも巨富を得ました。その後、勢力を恐れた義満と対立。1399年、義満の挑発的な上洛命令を拒否して、義弘は密かに鎌倉公方の足利満兼と通じて、軍勢5000で堺に籠城しますが、満兼が関東管領・上杉憲定に説得されて挙兵を中止。義弘は孤立無援となり、幕府軍3万に攻められ、壮絶な戦死を遂げました（応永の乱）。

⑩ 瘡神神社跡

敏達14年（589）、瘡疾流行で村民が少彦名神を祀ったのが起源で、江戸時代には茶店、門前市が出来て参詣者が列を成したといいます。牛と馬の2種類の絵馬があり、牛は生草を喰うので祈願時に牛の絵馬を、馬は枯草を食うのでお礼参り時に馬の絵馬を納める習慣がありました。瘡（くさ）を草（くさ）ともじったわけです。明治40年（1907）に船待神社に合祀。

⑪ 片桐棟龍堂（内部非公開）

創業400有余年の伝統老舗漢方薬局で、江戸時代の伝統的建築物（主屋・東ノ蔵・中ノ蔵・摩利支尊天神社廟・西ノ蔵・洗い場・煉瓦塀）が登録有形文化財です。西ノ蔵は日本では数少ない漢方医薬専門資料館として国内外の専門家から高い評価を得ています。※内部非公開。現在も店舗使用されていますので外観見学のみでお願いします。

⑫ 風車

明治以降、外国の輸入綿によって泉州の綿業は打撃をうけ、湊から石津にかけてミツバ、ホウレンソウ、キクナなどの野菜栽培を始めましたが砂質土壌で大量の灌漑用水が必要でした。そこで大正頃に地元の和田忠雄氏、高野長次郎氏、中尾正治氏らがオランダ風車をヒントに浜風が動力源の風車による地下水の汲みあげを考案。見事な効果を上げて1965年頃には400 基近くの「堺の風車」が林立しましたが、農地縮小やスプリンクラー導入などで衰退、現在では消滅しました。新湊小学校前にレプリカがあります。

⑬ 塩穴通

正式には堺市道・出島旭ヶ丘線。東に進むと塩穴交差点（大阪府道61号堺かつらぎ線）に出ます。湊地域は古代は和泉国大鳥郡塩穴郷に属し、承平頃（931～938）に源順が編纂した辞書・和名類聚抄にも「之保乃阿奈」（しおのあな）とあります。和銅元年（708）には元明帝の勅命で塩穴寺が建立され、寛徳2年（1045）の藤原定頼歌集「権中納言定頼卿集」には「さか井と云所に しほゆあみに おはしけるに」とあって、当時の堺は万病に効く塩湯浴の名所で有名でした。現在でも湊には湊潮湯（関西唯一の海水のお風呂屋さん）があります。

⑭ 天下一御壷塩師堺湊伊織

天和3年（1683）の衣笠一閑著の堺地誌「堺鑑」によれば、天文頃（1532～1554）に三十六歌仙・猿丸太夫の子孫・藤太郎（藤太夫説もあり）が、京の上鴨皇枝村から湊に移って紀州雑賀塩を土壺に入れて焼き直して販売したとあります。湊の名産となり、承応3年（1654）には堺政所の石河土佐守利正が女院御所（東福門院、徳川秀忠五女、明正天皇生母）に湊壺塩を献上。その繊細な味を褒め称えて「天下一」の美号を許し、延宝7年（1679）には関白・鷹司殿下より美名「伊織」を賜りました。船待神社には壺塩屋が寄進した菅公の掛軸があって、その裏に願文と壺焼屋の系図があり、伊織は9代目壺塩師ということがわかっています。湊壷塩は北は仙台城から南は鹿児島鶴丸城でも発見され、また長崎出島のオランダ商館にも持ち込まれていた記録があります。

◆このマップは堺探検クラブのまち歩き資料として作成しました　◆1コースの距離は約2～3キロほどです　◆堺探検クラブのまち歩き情報は公式サイトをご覧下さい　http://sakai-tanken.net　◆お問合せメールアドレス：info@sakai-tanken.net

【監修】陸奥賢（堺探検クラブ代表）　【制作】以倉敬之　廣田裕介　イロトリ　【イラスト】田平知子（まちらぼ）　水口春香（まちらぼ）　【協力】湯川まゆみ　宝楽陸寛　石橋尋志　NPO法人堺観光ボランティア協会　※当マップは堺区役所自治推進課による「堺区の魅力づくり」市民自主事業補助金交付事業に認定されています。